



竹田市特産のサフランを使った美容液「竹音」。31日に大分市のトキハ本店で開く物産販売イベントでお披露目



サフラン 美容液 完成

【竹田】竹田市久住町の久住高原農業高生らでつくる「おいしい“たけた、研究会」が企画した市内特産のサフランを使った美容液「竹音」が完成した。31日に大分市のトキハ本店で開く物産販売イベント「竹田の風土を、まとう日。」でお披露目する。

久住高原農業高生らの研究会

31日、大分市でお披露目



サフラン美容液「竹音」や「竹田の風土を、まとう日。」をPRする久住高原農業高生徒たち＝竹田市久住町

市産サフランは1903年から栽培。室内に球根を並べて花を咲かせる伝統的な手法を用いている。国内生産量トップの産地ながら認知度は低く、生産者の減少といった課題もある。

栽培を盛り上げようと、同校は2021年度からサフラン栽培の研究を続ける。昨年、市内の特産品や食文化の魅力を市民らと共有し、持続可能性を高めようと同研究会を設立。活用策の一つとして美容液開発に取り組んだ。同町久住の「赤川温泉 赤川荘」と協力して、サフラン

と温泉の組み合わせを模索。同校で栽培したサフランから研究会に参加した市民らと採取した花芯と同温泉の湯の花を使うことを決めた。クラウドファンディングで資金を募り、オリジナル化粧品開発の「株式会社響」（本社東京都）に依頼し、試験製造、使用感テストなどを経て今月、完成した。

「竹音」は1本50ミリで7800円（税込み）。同町久住の宿泊施設「赤川温泉スパージュ」などの販売を予定する。研究会メンバーで同校の秋山千咲さん（1年）は「さらっとして使いやすい。サフランの香りがほのかにする」と感想。阿南瑛大さん（同）は「塗ると肌触りが滑らかに感じられる」と話した。

物産展では「竹音」をはじめ、市内の工芸品、農産物、加工品なども販売する。研究会は「竹田の豊かな自然から生まれる農産物や手仕事の品物を紹介するとともに、携わる人たちに光を当てたい」と張り切っている。（指原祐輔



〔問①〕「おいしい“たけた”研究会」が設立された目的は何でしょうか。記事から見つけて書いてください。

市内の特産品や食文化の魅力を市民らと共有し、持続可能性を高めるため

〔問②〕竹田市のサフラン栽培において抱えている課題を記事を踏まえて書いてください。また、高校生たちが開発資金を集めるために使った「クラウドファンディング」という手法は、単に「お金を集める」こと以外に、このプロジェクトの課題解決にどのように貢献したと考えられますか。あなたの考えを記述してください。

課題：認知度の低さ、生産者の減少

あなたの考え：クラウドファンディングはインターネットを通じて全国から支援を募る仕組みであるため、資金集めと同時に「大分県竹田市でサフランが作られていること」や「そのサフランを使って美容液製造に取り組んでいること」を全国に発信し、認知度を飛躍的に高めるPR効果（広報効果）にも貢献したと考えられる。

〔問③〕地域独自の特産品を長く愛されるものにするために、大切なことは何だと思いますか。記事を読んで、あなたが感じたことを書いてください。

地域の特産品が持つ特徴を、美容液のような生活に身近な商品と組み合わせることで、使う頻度を高められる。そうすることで、特産品の良さを日常的に実感してもらえる。